

アルゼンチンタンゴ

S 46年卒 橋本悦夫

【曲としてのアルゼンチンタンゴ】

1. 1800年代の終わり頃から聴かれていたアルゼンチンの民族音楽が、様々なジャンルの楽曲と混じり1940年代の戦争特需の好景気に乗って発展。
2. 1950年代には世界に発信され大ブームとなる。
3. 1960年代には日本でも一大ブームの時期があった。アルゼンチンより様々な楽団が来日している。
4. 1987年にブロードウェイでタンゴショー「タンゴアルゼンチーノ」がヒットし日本でもブーム再来。
5. 楽団の構成はピアノ、バイオリン、コントラバス、バンドネオンなどで大編成が多い。
6. ドイツ発祥の蛇腹楽器バンドネオン（アコーディオンとは似て異なるもの）によるスタッカートが特徴的。



バンドネオン

【踊りとしてのアルゼンチンタンゴ】

1. 移民の国であったアルゼンチン、その首都ブエノスアイレスのボカ地区が起源といわれている。1800年代のボカ地区には港湾労働者が多く、酒場で騒ぎ踊る場末のダンスから始まった。



移民は男性が多かったため、当初は同性で踊っていた。

2. その後アルゼンチンのダンサーが欧米に渡りタンゴダンスを教える中で徐々に洗練され、社交界などで流行となったことから世界に広まる。
3. 一般的にはサロンタンゴと言われているソーシャルダンス（ミロンガ）を楽しむ人が多く、中には競技ダンスやショーダンスを目指す人も。
4. アルゼンチンタンゴは2009年、ユネスコの無形文化遺産に登録されている。

【アルゼンチンタンゴダンスのルールなど】

1. 男性が女性を誘って踊る。誘う方法はカベセオというアイコンタクトが基本。
2. 3曲から4曲の一区切りを誘った相手と踊る。この区切りをタンダといい、タンダ毎に相手を変える。（同じ相手と連続して踊らない）
3. タンダの終了はコルティナ（カーテンの意）という全く別のジャンルの曲で知らせる。（ロックンロールなどもあり）
4. ダンスフロアの外周部を反時計回りに踊りながら周る。
5. タンゴでは曲ごとに決まったステップはない。基本ステップはあるが、組んだペアがその時の曲をどう感じ、どう動くかその場で判断しながら踊ることがタンゴの醍醐味。



ミロンガ（ソーシャルのダンスパーティ）風景